

目標達成計画

グループホームのぞみ苑

作成日：令和5年5月19日

優先順位	項目番号	現状における問題点・課題	目 標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	期間
1	19 20 9	<p>コロナ禍で地域やご家族との交流に制限を設けざるを得なかったため、苑内の現状をお伝えしきれていない。特にご家族には不安な思いや、些細な疑問に向き合えていなかった事が運営推進会議や外部評価で明らかになった</p> <p>・運営推進会議を活用して現状のありのままを発信できる場にはしていても、家族様や地域の方々のご意見を交換した事を反映する所まで行けていない。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ご家族とのご意見の吸い上げと連携の強化（今一度、家族様目線の情報発信をしていく） 地域交流やボランティア受け入れの復活、参加をしていく 情報発信の拡大 運営会の構成員を増やしていき、地域協力や協働を呼びかける 本来の「グループホームのぞみ苑」としてのかわり方に戻していく 	<ul style="list-style-type: none"> 会えない家族とも SNS 活用による情報発信や日々のご様子を日常的な情報交換を密にする 疑問や不安（苦情も含む）に関して 2,3 か月に一回意見を求める書面をキーパーソンに送付し、その結果をサービス向上委員会中心に、対応策を考え、迅速な対応・反映をする 苑内行事などへの参加の声掛けを増やしていく 地域、家族と苑が集う運営推進会議を活用して情報交換や情報公開で連携強化に努める キーパーソンに限らず家族への参加のお願い連絡、地域の方への声掛けを実施していく 	6ヶ月
2	24	<ul style="list-style-type: none"> 利用者急変時の職員の対応力にバラツキがある コロナ 5 類に移行後のコロナ患者発症時の病院が不透明 家族より医療との連携強化を求められていることに対し、即連絡・即相談を円滑にしてほしいとの要望があった 	<ul style="list-style-type: none"> 職員の対応力の統一のための研修継続 コロナ、急変、重度化、終末期におけるスムーズな医療連携の構築 小さな変化にも気づける職員の育成 	<ul style="list-style-type: none"> 体験型やディスカッション形式の研修内容の強化を実施し、対応力を上げる 美祢消防救急隊員による研修の実施 日々の利用者の表情や言動・体の状態などを感じた事を口に出す習慣を身につける 急変や病院対応に対し、家族への連絡を迅速かつ円滑にし、家族と共に決断する連携を強化する 	6ヶ月
3	25	<ul style="list-style-type: none"> 夜間帯での 1 人での緊急事態発生の対応、避難訓練の強化は練度を上げるためにも必須 応急処置の対応の研修の強化 	<ul style="list-style-type: none"> 安全な避難と確実な報告 備品の整備 年 2 回の避難訓練プラス運営会を通し、地域の方と協働しての災害訓練の実施 	<ul style="list-style-type: none"> 利用者と職員の安全を確実に守る行動が出来るよう避難訓練等を継続する 自然災害に備え備品を整備する 地域との連携強化 	6ヶ月
4	11 12	<ul style="list-style-type: none"> 業務改善の実施があいまい 職員間でのケア情報共有が不十分 リーダー的存在の職員が新人を育てる仕組みの確立 	<ul style="list-style-type: none"> 業務改善事項の内容を実施・検討のサイクル（PDCA）を確立する 職員の増員に向けて SNS などを活用し、のぞみ苑独自の良さをアピールする 他施設との交流 事業目的・理念の共有 職員研修・職務・職責の明確化するために、委員会の掲示、理念研修を充実させる為の冊子を作成し、独自のサービス提供の価値を高める 	<ul style="list-style-type: none"> 業務改善のタイムスケジュールを全職員が今一度共有して実施する 職員募集のチラシ貼り出しやのぞみ苑だよりの配布先を増やす SNS で独自のイベント・ケア情報を発信して未来の職員に向けてアピールする 職員研修として苑独自の事業目的、理念の共有の研修を実施、職員が働く楽しさや目標を持てるようにする。（月に 1 回の研修兼、全体会議で共有） 	1ヶ月～1年